

ホソカワ粉体工学振興財団設立 25 周年を迎えて ～さらなる飛躍，世界に向けて～

Celebrating the 25th anniversary of Hosokawa Powder Technology Foundation
~Further advancement toward the globalization~

粉体工学の振興を！

1991年12月に設立されたホソカワ粉体工学振興財団は、本年25周年を迎えました。ホソカワミクロン株式会社は、その前身である株式会社細川鉄工所の時代から粉体産業の発展にはその基礎となる粉体工学の振興が欠かせないとの強い信念のもと、粉体工学の姿がまだはっきり見えない草創期から、粉体工学の啓蒙活動に取り組みました。粉体工学に関する専門誌が皆無である60年前に、現在もホソカワミクロン（株）が刊行している粉体技術の専門誌「粉砕」を発刊しております。我が国には、世界で唯一の粉体工学単独の学会である「粉体工学会」がありますが、その機関紙「粉体工学会誌」が本年53年目であることを考えますと、本当に早い時期から粉体工学の重要性に着眼し、その振興に尽くされた慧眼には驚くばかりです。

振興事業の展開

1960年代には、学会と産業界との懇談会である粉体技術談話会を設立し、講演会や研究助成を通じて、粉体工学の振興に注力しました。さらに助成事業を充実させて本格的な振興を図る目的で、1991年に財団法人、そして2011年には公益財団法人としての認可を取得し、現在に至っております。

本財団は、毎年、素晴らしい業績を挙げられた研究者に贈呈される「KONA賞」をはじめ、これまでに600名を超える研究者の方々に研究助成を行うとともに、大学院学生を対象とした若手研究者の育成



図1 第50回粉体工学に関する講演討論会風景

や粉体関係の学会の開催援助などを実施し、粉体工学の振興を図ってまいりました。その概要を表1に示します。助成事業のほかに、「粉体工学に関する講演討論会」を開催しており、この討論会は本年第50回を迎えました（図1）。「粉体工学に関する講演討論会」は、1968年（昭和43年）に第1回が開催されております。昭和40年代は、石油化学工業をはじめとしていろいろな分野での生産活動が急速に盛んになった時代でした。それにともなって、粉体に関係する分野では、多くのトラブルに見舞われた時代でもありました。こうした粉体に関するトラブルや将来的な課題を産業界と学会の研究者・技術者が一堂に会して討論し、互いに協力して解決することを目的に、この討論会が誕生致しました。爾来およそ半世紀にわたって、毎年東京と大阪とで交互に開催され、その時々々の粉体工学や技術の課題あるいは粉体関連の新材料開発などについて活発な討論が続けられ、好評を博しております。

本財団の特徴

一般に、学術振興財団は国内の学術振興を図ることを目的にしますが、本財団の特徴は世界の粉体工学の振興が目的であることを定款に明記し、実施していることです。

振興事業の一つである粉体関連の学術誌「KONA」は（図2）、来年1月に34号を発行します。すなわち発刊から34年目を迎えますが、発刊の最初から英文誌です。本財団が世界に目を向けていたことが良く分かります。発刊の初期は、我が国の質の高い粉体研究の成果を全世界に流布することが目的でした。したがって、KONA誌へのオリジナル原稿のほかに、いろいろな学会誌の優れた論文の翻訳が掲載されていました。その後、粉体研究の国際化が進むにつれて、ヨーロッパ、アメリカとアジア・オセアニアの3地域にそれぞれ編集委員会（Editorial

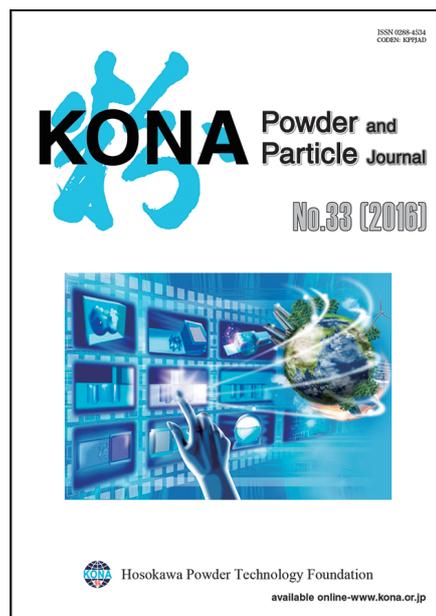


図2 KONA誌 No.33 (2016) 表紙

表1 助成・褒賞事業の実施状況

(助成単位：千円)

平成 年度	研究助成			KONA 賞			海外渡航者援助			シンポジウム等開催援助		
	応募件数	採択		応募件数	採択		応募件数	採択		応募件数	採択	
件数		助成金額	件数		助成金額	件数		助成金額	件数		助成金額	
4	69	20	26,000	1	1	1,000	10	6	1,800	6	3	7,000
5	86	31	20,400	8	1	1,000	8	6	1,800	3	3	6,500
6	70	25	13,800	3	1	1,000	10	5	1,500	5	3	5,000
7	88	27	15,280	5	1	1,000	11	5	1,500	1	1	200
8	84	27	15,000	3	1	1,000	8	5	1,500	(公募せず)		
9	57	29	18,000	5	2	2,000	8	5	1,500	0	0	0
10	66	25	17,800	5	2	2,000	7	3	900	0	0	0
11	64	21	18,000	4	2	2,000	9	4	1,200	4	2	1,500
12	79	23	17,900	4	2	2,000	11	5	1,500	2	2	1,500
13	61	31	18,900	10	1	1,000	12	5	1,500	1	1	1,000
14	68	24	18,300	3	1	1,000	7	4	1,200	4	2	2,000
15	76	24	18,200	7	1	1,000	6	4	1,200	1	1	1,000
16	101	25	17,200	5	2	2,000	10	3	900	2	2	1,000
17	120	24	23,000	5	1	1,000	(公募せず)			5	2	2,000
18	112	23	23,800	4	1	1,000	(公募せず)			2	2	1,500
19	137	23	21,900	1	1	1,000	(公募せず)			5	2	1,500
20	128	18	13,500	3	1	1,000	(公募せず)			4	3	1,000
21	公募せず											
22	公募せず											
23	117	17	13,000	2	1	1,000	公募せず			6	3	1,400
24	79	14	8,600	5	1	1,000	公募せず			公募せず		
25	119	30	23,000	3	1	1,000	公募せず			0	0	0
26	126	23	19,400	5	1	1,000	公募せず			1	1	1,000
27	150	22	16,700	5	1	1,000	公募せず			1	0	0

(助成単位：千円)

平成 年度	研究者育成の援助			出版物刊行援助			特別枠		拡大研究助成		合計		
	応募 件数	採択		応募 件数	採択		件数	助成金額	件数	助成金額	応募 件数	採択	
		件数	助成金額		件数	助成金額						件数	助成金額
4	8	5	1,000	1	1	10,000					95	36	46,800
5	15	5	1,000	2	2	10,065					122	48	40,765
6	19	6	1,200	1	1	8,000					108	41	30,500
7	19	7	1,400	0	0	0					124	41	19,380
8	20	7	1,400	(公募せず)							115	40	18,900
9	16	6	1,200	(公募せず)							86	42	22,700
10	16	9	1,800	(公募せず)							94	39	22,500
11	22	6	1,200	(公募せず)							103	35	23,900
12	26	7	1,400	(公募せず)			7	3,900			129	46	28,200
13	19	8	1,600	(公募せず)			7	3,000			110	53	27,000
14	19	8	1,600	(公募せず)			4	4,000			105	43	28,100
15	16	9	1,800	ホソカワ研究奨励賞			4	4,100			110	43	27,300
16	27	7	1,400	応募 件数	採択		5	3,100			150	44	2,560
17	26	11	3,300		件数	件数	助成金額	6	3,800	3	15,000	165	47
18	16	11	3,300	9	3	1,500	3	3,000	2	10,000	148	45	44,100
19	22	10	3,000	11	3	1,500	3	3,000	1	5,000	180	43	36,900
20	19	10	3,000	8	2	1,000	2	1,100	0	0	164	36	20,600
21	公募せず										0	0	0
22	公募せず										0	0	0
23	公募せず										125	21	15,400
24	公募せず										84	15	9,600
25	12	9	2,700				公募せず				134	40	26,700
26	28	9	2,700				公募せず				160	34	24,100
27	30	10	3,000				公募せず				186	33	20,700

board) が設置され、諸外国の優れたオリジナル論文を掲載するようになりました。

現在では、海外の電子ジャーナルや文献検索システムともリンクする文科省科学技術振興機構のJ-Stageに搭載されており、世界中の多くの人々がいつでも無料で閲覧してもらっています。学術雑誌を刊行する財団は少ないにうえに、早くから外国に目を向けて研究成果の伝搬に貢献するところにも我が国のみならず、世界の粉体工学の進展を願う本財団の素晴らしい心意気がうかがえるのではないのでしょうか？

本財団のこれから

本財団を創始し、そしてそれを着実に育てあげられた大先達の方々の先見の明には驚くばかりですが、現在を託されている我々も、本財団が目指す粉体工学振興の実を挙げなければなりません。

現代社会は、世界中の人間や物がインターネットで繋がる時代となりつつあり、急速にグローバル化しています。本財団の事業も一層のグローバル化が必要になっております。そこで、次の事業の一層のグローバル化を図ることを計画しています。

- 1) **KONA 賞**：この賞 (図3) は、もともと世界の研究者に対して創設されたものですが、これまでの受賞者は国内に偏っていました。推薦と選考システムを改め、海外からの応募が容易になるように計画中です。賞が保持しなければならない大切なことは、受賞者が誇りに感じられることです。そのためにはしっかりした選考システムを作り、さらに世界の研究者にこの賞を十分に認知していただくことが必要です。国際会議での授賞式の挙行なども想定しながら、粉体工学における唯一の世界賞に育て上げたいものです。
- 2) **KONA 誌**：前述の通り、本誌の役割は時代とともに変わっています。現代における本誌の使命



図3 KONA 賞授賞式



図4 第1回ホソカワ国際シンポジウム

は、注目される粉体工学と技術に関する質の高いレビューペーパーを15-20報まとめて年1回世界中に配布することです。KONA誌が電子ジャーナルになり、引用件数や閲覧数が飛躍的に増大しており、学術雑誌としての要件は備えてきています。課題は、質の高いレビューペーパーを集めるシステムを作ることです。3つのEditorial Boardとの連携強化とKONA賞の知名度アップにより達成できるものと思います。

- 3) 国際シンポジウム；国内で開催している「粉体工学に関する講演討論会」の海外版である国際シンポジウムを開催します。すでに、第1回の国際シンポジウムは2014年9月にドイツの

Augsburgで開催し、ヨーロッパの10ヶ国から60名程度の参加がありました(図4)。現在、第2回をアメリカで開催できるよう計画中です。3-4年に1回程度、世界各地で開催したいと思います。

本財団の中心となる事業は、粉体研究者への研究助成を通じた粉体工学の振興ですが、それに加えて、粉体工学分野の活動の活性化と粉体工学の啓蒙活動も世界的視野で実施することが必要です。

【公益財団法人ホソカワ粉体工学振興財団 常務理事
(同志社大学名誉教授) 日高重助 記】